六藝

全

特別
へ5
6577

陳氏曰禮以制中樂以道和
射以觀德行御以正馳驅書覽
心畫數以盡物變皆至理所寓而
日用不可缺者也於戲六藝豈
易言乎是之故能學之者亦鮮矣
乾氏淳之爲者謝師也今以六

<96-150>

藝為題教諸子賦之賦云能知
理之不寓則雖曰未學吾必謂
之學矣
正德第五歳舍乙未仲春之日
山麓風能子題

禮

歌僊　半時庵

見渡せば柳の下孫葉花　汐々
緑濃くなりぬる春とぞ　弥舍
汐の江の花の色は変らぬ　里右
山ハ色々小ゝ明ゝ　奥輔
菜摘ます上繪巻　一挂
ちぎれる雲ゝ錦ゝ　也長

吐逆して箱崎まで伝着する　水色
ためやうなる鎌姫丸　猫　拙筆
神ずき十日丸　地蔵菩薩　珠舎
下山の兎　乗り　秋　淡々
鐵床のぶぶやり　杜　竹宇
又こも市に鶏を請ふ　星丸
是より東まいや言伝うる　魚猫
初秋の頃　雖も解毎　一桂
両陣の護とのうハるりの事　やも

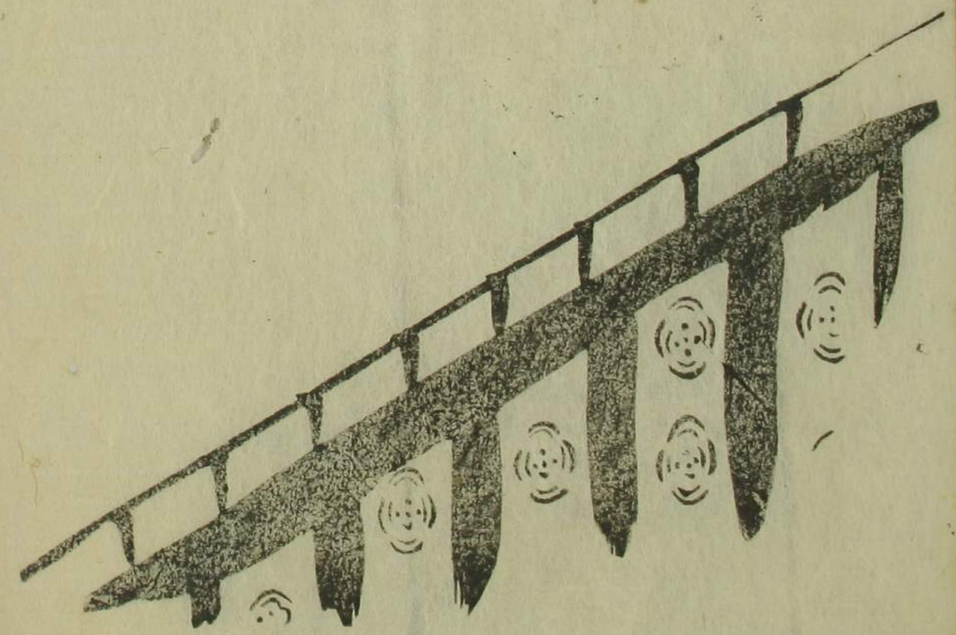
来御嘲弄如斯　水色
猪の毒薬倒す　宮の恒　一桂
○言ふまじきは乳貰ひ　竹宇
山の鑢琴乃埃り　星丸
内商書　毎世口ふれて　珠舎
豆腐の人　かつぎ荳の姫　水色
そや御ちんで　越の雲　奥輔
ずつと百面筆筒　此の事　淡々
五月七歳　ほ　ろ　三歳　やも

麻売の紀てゝ紀宿の水絶　珎舍
大和の土佐方面のうゝ　一桂
腕の罹強ゝ手枕奪中立　也色
うゝい翼も逢ゝの目ハ　星太
数ハ色土佐日ハこれ高知舟　奥輔
元ゝ剣　跡ハ社業　水色
人豆の祈祷ハ雲下桂の声　一桂
弓鞆あり　こゝ不稀記　淡ゝ
豚代の稚ゝ手数ゝ　星太

あゝ直ゝ　奥輔
老ゝの嗜色　珎舍
太目乃豆のゝ　也長

礼ゝ影ゝ
新春北陸ハゝ紀言葉ゝ　宗因
おれ　ゝ
つゝみハ老北中成　於　芝

樂



凡葉や内寺北琴の清らく
聴よりて式を北音の響系　言水
琉球の船　汲みて　楽　松子　水花
雲やく　御池の春　春雪轉　好雲
春つかやうびけと星　蝶の脚　東歌
彼岸式笙歌たるて　国中　琴凡
ぬぐすくに一をたらやうの濱　百合
王ほひ北撞ら伝笑迄　蓑の鞆　龍凡

冠星子

ふのつくしれ
みや古ま　入るの日影
さやうにたしかな　春の花し
おもしろさハうれ青海原乃　あかき
春庭春の来てさく
柳も花炬燵酒　時也けり
老鳥扨　武徳百歳春の　声しく流

旅人や瓦雀のさえつる春の日　淡々
翠へすむ蕗の若笠　雪點
宗祇の山路はるく嵯　春来
白き羅たましけり　素風
持ちの肩きらきれて四つむ　巾車
ふけ残りて路に又竹　湘流
蛙鳴のたゆみも張る濁口　辰風
雲よりつく鏡葉の宿　冒水
ウ
楡乃柳や角おわれ父ハ空　指山

土芝のもとふ香の花文　孤如
心糸のこころはよくもほしらし（走汁）　金鯨
一つ乃鑿て　桝戸へ入　芦帆
百姿の美子ハ更ふ　柳山
車ふ乗ふ　江戸　砂女
かくうきや仁を経や　林風
侍れ戻さ迄て　松泉
雄女ハ土芝い字を　亀山
腟熟れ中より　如巴

うみやけ城書く別れ入れ　腟楽
酔ふ　祁ふ乃隅へ　白扇
字　諏訪ふ義　のふ　春汀
ふ言て　ゆきふ　猿助
二
蓮葉を　ひめくの　掌
月始ま　て　絵を立て　言丘
ふ　鄭ふ　夢を北　春系
甲州ふ　国ハ杜ふ　松風
小夢　北南　禅寺　間　巾車
　　　　　　　　　　沼流

舞衣なれとも　みハはま、　辰凡
汐干の比首節を吟ずる　昌水
社檀に侍ふ　ゆ　波々
言ひ合せ　孫如
楽屋へ　拓山
拍柳子　芦帆
地時乃　金鯨
月の白波　白南
筆比ふ　林風

他云　比　硯
座伝　比　睡采
ゆ　比　如巴
めの　比　春汀
立あ　比　猿助
頭の　比　柳山
鳩　比　松泉
ふ　比　遥山

射

騎して角弓
繁弱拒秦古之良弓也

一大鷦鷯の天皇治十二歳秋七月なる
磐園より鐵盾鉄の的をうてやれる
同八月より磐の宮殿あり
辨臣朝庭あつまりの須乃盾的を
射面すしるる時よ盾人宿禰

織の的を射面すしるる磐人とも強弓
勝巧(スクレタル)射(ミカトヲカミ)朝(ス)あけの日盾人
すしるを宿禰名曰的戸田
宿祢ト

一応仁の院乃御宴の席抽あり
すひおのしるる絵へき本昌を以
御机上ヶ置面しとおの絵を義泰
射ト御前ヶ置面しとおの絵を義泰
をうる射うるを御机上ヶ立る事

なりなれば産さうなれを御感ありて
世子八十二年今義の時なりしと
ひきづみなりしかるに不完結乃
ようしかられい　上皇御感ありう
一切のてのたち　射れは流の時各〻
宮殿ゆて大庭より出ようとせ
事行しかるに晴の方出流ありう
なるを立出やうかるれい方上流ふ
ちうこと西和方の側ちき庭の

仰ありと者行の義こる大ぎよ
りうものてみ和ようり矢先きの山角ん
専一なり中庭ハ瑞雲あるこ中ゑ
ものして表庭を蔭こ事呵りるれ
一揚方の上を江者ようハ豊ようとりよ
あり多りく皆矢しるるれ
正信ようものの柳方の御借ようり
あひてきり完れ不足ありまり婚
引ようるく東宮完しるる其後

奇異のものふかをひ出一座と皆く
感ずるもの多し時ふるまひてのぬし

挾矢射漢 杜子美

一放足高堂産子雅高天
庭望子為矢百発矢 先日子弓箭始ナリ
抜湯陳杜未之拙之知為雅を射
角力去人新撰の時このうち名な
しきとふ白珠者ちうと紹
弁ち立ち人あり立ち立類しかよ

ハ拾へ一言ふ拾ふを捉ふ捉ふを、
ちをとりの筆斤拾ふと語ふ
つまつさきの其類いかちを日
北つ方ちかたつ沖よ央の方
尺あまるの桃ちかふのみふかか
人あり中ちを央のを弁ふ
集ちつふ央のつふちふ
ちかやちふあひのつふ乃沖よ
尺ちを央のつふ拾ふハ
拾ふのちあへ一 秘記よ畜

神の身也を用いる紙に書情合
法を用給へ　　ゝゝすなわち屋の
　　ようの神の身草木乃
　　おゝゝゝゝゝ
法下御弟の命ゝこゝゝもくもる神の身
乃食の洞のゝんゝゝゝゝゝゝゝゝ　各洞ゝ
弘治元年新所の比ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ西風出ん
唱ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ元亀年中御墨基
　　き事を記キ　ゝを意ス　つのゝふの
民西風ヲ唱ゝて源味を知ん弘治ニ秋風ヶ峠

今ノ西風ナリ　青門に　　盆踊　　ゝゝゝゝ
秋也　　馬附木　　俗ニアキトヽ
ゝゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
御傘ヶ初汐ハ伍子胥ゝ七堰とのゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
立書ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
汐干ハ三月二日ナリ

千代海丸事郡よりの聞こゆる
所潤あるべし　一説に
昭中　貞國も潤潤の時乃
ゆゑ　一説に事実のよし
むかしと長谷の
家作を撰へ　明神山の明
心なり

上棟ノ弓

繩弦ふるまつる春北鳳　淡々

僧ハ

時藏の弓よりくゝり梨の弓　立

西みの乃ね

一弓のおもねうの弓納玄ゆ　ゆ松八
右の大長伊通乃和おりき美の
こと弁　越ひ西てく猪あしく
軍殿の行くもんみうく陳風ハ
いうくハくハ和ゆく対こうし
侍りしちと詣り猪ハ事ゆうく

こゝちおもひしまゝなれは上下
の者ほしよろこひ給ひけり
すなはちあくる日の御子立させ
まふ中院のみかとすなはち中将にならせ
しおはしけるかゆへにいかゝ成給ふ
きこしめしつゝのちにもこれを見るにめし
ことせおはしてもかしこし
おつききうつまふつるそ給ふ
まうしたる也

一むかし河内国にある男女人のむすめ
弟をもてりあるとしの夢子おもれる様
つきまいらせしかは土佐の国にまうてなむと
舟のりゆくそのうちへかしこ覚え
姉の女子ありて舟は行くれし
子は白き衣を着て南の方へ飛ゆき
おとこ海をわたりて行きて姉は勢
此国雄山といふ所あり又母と姉は高
く世にとまりの山北麓にたよりて

[illegible]

家[illegible]紀

[illegible]紀の家[illegible]

ゆ[illegible]時[illegible]

いか[illegible]説[illegible]

家[illegible]の孫子[illegible]

寺角

一紀[illegible]の家の[illegible]

[illegible]

[illegible]

相撲八番仁七歳秋七月當麻ノ蹴速ト
出雲ノ国野見ノ宿禰トに捔力（スマヒトラシム）二人
お對[illegible]立[illegible]足ヲ相蹴（フム）則蹴速（カ）
脇骨を折（カク）ル[illegible]折（クキテ）
殺ス[illegible]地を矢集て歸見宿禰
[illegible]悪鳴ノ是以其邑ヨ腰折田之縁也
弦[illegible]
[illegible]
無絃琴[illegible]反り[illegible]家の[illegible]

高一寸

綿うちの寸けづちや

[illegible]

一 [illegible] 時拙是大九月[illegible]

[illegible]を立形謙信あるの時毎

三味ひして謙ま八幡[illegible]寸響を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]化[illegible]矢[illegible]九月

の手傳[illegible]

[illegible]の時の[illegible]

[illegible]寸[illegible]句[illegible]

[illegible]

[illegible]四[illegible]年[illegible]の

人[illegible]

[illegible]響[illegible]

感[illegible]の[illegible]

十六

一弟衛ハ手蠅まゆみふ紀昌ハ師衛子
なるべきぬ術をうるより三年瞬を
ゆびさしてこれを車輪のごとし
以燕角之弧朔蓬簳射之瞬の心を
つらぬくとあり弟のまゆ毛の
ほころびをもつらぬきぬ

詼諧也瞬ちゝ也——弟蓬　洛々

誹と俳とは言の字こゝろ也
詠るあめを

御

相うらの社

春の郭や雲なかるゝ社もる　珎舎

[illegible]　泊船

馬乃ちの紀宿ちの日ちれる梅の花　古陳

木槿ハ馬よくらをうゝ蓬の酒ゝ乃ちわし
か家川ワるる牛車ハ弟ちちの[illegible]
御のあらひ[illegible]の坊御ハ活ちう
ところうゝハ[illegible]

高山まいでゝ[illegible]　雪岱

淡々

[illegible]ちゝや岐阜ハ[illegible]ちの綱　雲敲

三川の[illegible]ちゝ[illegible]　淡々

湯ちゝ[illegible]五市鑑泳[illegible]　暮四

次ゝ[illegible]　百合

[illegible]の[illegible]ハ[illegible]猿[illegible]ちゝ　法竹

海の杉ちゝも直ハ[illegible]　東欽

鶏ハ[illegible]ちゝ膝ハ殿　淡々

雑屋ちゝ[illegible]ちゝ[illegible]　敲

ぬ川ちゝ酔ちゝ仕ちゝ[illegible]　合

万年待つる忠功乃志
造營所古の先きあるく濟ス之
二竹とそなたの窮唱り　竹
寡の君我の便り子あ雪　四
掃ちまけるなたかけの鶴　敲
糊の形元くゆ廣うなる年　合
下すまるまちなる寸瞳物　四
はるくなる一片なるくなる　淡
暑もれ蟬よ天井いまぐ　合
　　歌

はるぐれ　蓋功　の長多ふ
とうるまるすいたる程ふ乳
花柳ふハ泪ちんにはるれ
これるる年のの小出唱弥　敲
敲いぐ弱とるうらはきる　淡
橋ハ三ヶ春黄ふまるぐれ　合
はれ一ふ衣明うねに腑嗅き　歌
國礼酒座乃枝ちるるよ　四
君竹のはちを解ふ明つる寸　敲
　　竹
　　四

漁村のうしをよする猫切　渋

凡信ずるかまねや神ぬ　竹

暮なまの時雨を早うおつる　歌

桑の葉ちらすうす　五葉ヵ　百合

山さくらの　船　雲敲

矢挽間まさし四代の亀あり　乃相懐　波々

外宮の用四下ら海苔、　暑四

家なれや下手和歌ヶ綜もの中　東歌

ちさし　曲　紅ようかるもしも　法竹

光任の夕べ

了北八乃裏の男兵衛千代　盈科

甲斐黒

大平や二晴尾祭雪の風　星丸

連　粥　不曾ふるく赤乃子瀬尾ら家多多ふ

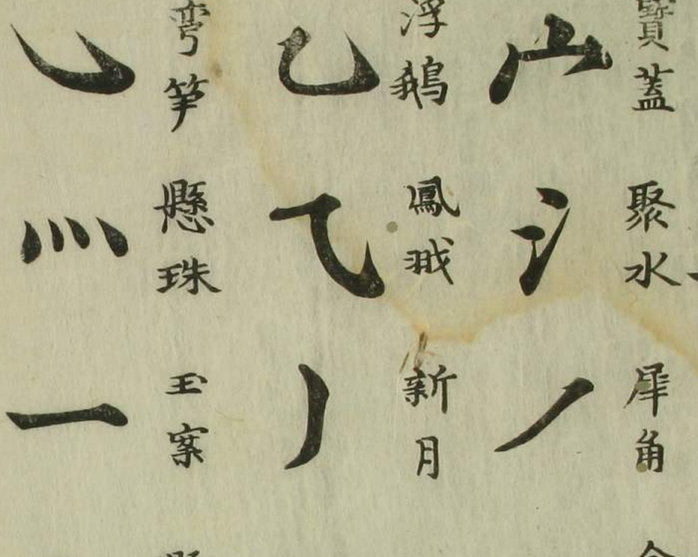
静澄ふ二清ハ小鮎　竹宇

赤兎馬

いれまやうなれば父毛毋仁　水点

書

寶蓋　聚水　犀角　金刀　鉄城　鉄鈴



浮鵜　鳳戒　新月　獅口　蟠龍　門枕

弯笋　懸珠　玉案　懸針

置點名一字

蓋 濤より花乃 庵北への字式 陪通
水 曲るや 蝸牛の 紋をもて 橋 好雲
角 くろうしのもと乃 ヤ 仲の 餅 金毛
卜 むの 雅 金卜 胃 ゆ 猿 月 民乃
越 海の川 白 鶴角巾 光彦
鈴 蓮のこえや 海 おつる 研
船 唐船より 海より 香行澤 牧童
越 仏とも 黄鶯 雪乙母 柳虹

月 出雲 海の 月 小三表 章佐
口 やすし 毒乃 口 乃 藤 訣雲
苔 余 苔 苔人 友志
枕 何時 枕 陪藤
箏 泡の 箏 雲不
珠 桃 珠 波々
寮 よこ 寮 毛苔
針 針 針 魚補

數

[illegible]暦や[illegible]不変[illegible]花　古山
[illegible]や英ひ[illegible]陸湖の舟　一桂
蒔出る榻の[illegible]蕨の[illegible]　也色
德[illegible]る桜子の[illegible]　逸山
晴[illegible]北中埼ハ花よ[illegible]　白雨
目[illegible]ハ章のひ[illegible]　昌水
湯豆腐や[illegible]の[illegible]橋岩[illegible]　孫如

桃[illegible]や読[illegible]はこの至所　冊士
[illegible]北戸の空色[illegible]括[illegible]の　冊林
時の間[illegible]よ[illegible]ちよ流れ舟
[illegible]
[illegible]
[illegible]九日[illegible]
[illegible]

二章　[illegible]

[illegible]ハ[illegible]　[illegible]　淡々
二三尺先[illegible]人見や藤花　主

春ちかし柳の糸の風にたなびく　冠星子

混雜　四季新古

苗代の待ちとりあつめや清水の音　大坂　古磨

春雲の化物ならぬ月　三ノ　流通

でハあつて蟬のふみや初櫻　鶯石

久しうして中あるやたちかく　水谷

寒泉の音も格ス　莖葉子　也水

路のもうあ葉も自ら春　江戸　白雲

下葉哉の狀解ちう牛の脇　主　席令

恵良のうしろ[illegible]や風の巾　主　百星

廻伽柳ハ[illegible]ものうるる田螺　主　巴人

つくしやたちかく稚竹路のとう　百合

[illegible]や[illegible]中　辰巳

蕚の色や初[illegible]ハ　扣帳　金線

赤ハ蕚立四月五日や寄ハ　僧　專作

寄——ちや星を[illegible]山橘　主　不遷

垂の蕚人立　以上　[illegible]　民良

[illegible]や[illegible]二天門　雲逝

題畫圖

蘭の色やいよ〳〵あけぼの　武夫騎　為之

霞ゆきぬ庭よりあとの松柳　清之

伺こゝろおぼゝ益信や方　流通

榜

信國の二代とゝつ末葉　石　国光

母ゝとゝの乳し恩　屋　来国紅　清之

乳乃上をもてゝ十三　孫舎

父ゝとゝ此はゝとゝ　清々

小川ゝさ柳のつゝゝ雪の雪　一桂

淀酒も吟や新まゝ毎　松山

雲泥や立ハ坪平川市五　山東

六時雨のゝ色物ゝ柳を八分柳　江流

碑ゝ色てゝ蛙ゝ鶯を　大坂　甘泉

四文三章

星ハいゝゝ舞よゝ　葉ハ恒　清〻

遠鄙を鶴や毛ゝ　雪丘

木戸ゝ錦自ゝ　東歌

小春比白くくんをとめすき　之白

蹴のねや連歌を　梅の花　清こ

さりもあらぬ雲ぬすむ　秋風　春家

八朔

武士の　湿きも　枝の　露かな　清こ

稲こき　こく　茅屋から　角く　柿かな　青羽

谷を出る　主従　ハ　ふ　行屋　林屋

湖の　秋の　雪や　うつり　清こ

走り井　ハ　ゆ　有　つく　寒かな　之

百番　北内　外の　州や　ゆ　ゆ　角　松風

蕎麦　乃　乃　中を　ら　他　異かな　清々

太八　四橋　高　ら　く　然　ら　ゆ　彩　ら　く　し　行　名

彩　西　ら　乃　中　八　着　ら　ら　ら　ら　世　不　長　薬　乃　中　ら　ら

ア　ら　と　彩　的　の　長　と　ゆ　色

笹竹の　子　秋　雨や　ワカナ　春門

摘　初　し　おも　ひ　塘　元　ら　爲　江戸　治徳

竹　尊　長　ハ　家　舊　家　ら　ら　ら　ら　十　月　茗　根　の

早　雲　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら

この　書　京　る　初　ら　く　く　雜　餐　の　姿　ら　ら

新　新　も　か　み　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら

石　の　上　と　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら

多　神　宮　ト　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら　ら

雨もなをしく
塵埃る箱根山波の葉をたて
篝火をたくとて
つゝみあひて京の情
難の月光儀をしはや玉柳　青流軍
うぐゐす馬九たびのみち面　祇室
俤俤盼眄もうれ向うあく　波々
棒の人位ちらく　篝
宛藏よ岩の底のたまゆ　室
波

職一乃年を迎て内福　露
徒事をもとめ六田場　室
雇ひ和尚手ワケ押入　波
治部ゝ屋根を白ひ星の縁　露
所から夢を見ゝ　室
蚯蚓の樊ハ武ヲ一義の質　波
京乃おとゝの面り相の色　露
引つく月ハやゝ所所ら　室
平生謎をうく乃毋ゝ　波

空蟬の背をうちみうつる　彦
ここ〳〵ここ北きたぐち　空
湯の山の仙〳〵風の俳　淡
百姓の仙〳〵よ草鞋つゝ　彦
だりとうゝ歩る竹籠　空
世に出る時不便なる　淡
凡一事を畫圖に写す頃より　彦
矢人亟人相かゝ屋に　空
一万年北遠き故郷の風　淡

高麗の高僧にくゝ白ハ花る　彦
角の鈍者をおろす北石　空
嵐陣と地を拵へ待ッ　淡
旅ほろ〳〵二三月ハ雲〳〵　彦
ほつ〳〵と味る泪なりけり　空
老人をこの坊ゝ十年蛍　淡
母をこの世に亦曾ハ福者　彦
鶯ふゝ夷おろしの朝の梯　空
加の射初て拾ひうき初　淡

むらの梅ちらへ八例演菓子　房

居士ゑよ山ゑ草庵　誠室

碓ゑ津ハ八日北嘉ヲ[illegible]　滄々

もやえを[illegible]蓬而あり　仙房

六畳一菜[illegible]

もりつ[illegible]

[illegible]庵[illegible]ノ春

[illegible]